



図書館だより



2023年
2月14日号

秋草学園高等学校 図書館

先月発表された第168回芥川賞と直木賞。芥川賞に井戸川射子さん『この世の喜びよ』、佐藤厚志さん『荒地の家族』、直木賞には小川哲さん『地図と拳』、千早茜さん『しろがねの葉』と、どちらもダブル受賞となりました。現在、図書館にて受賞作の展示を行っていますので、気になっている人はぜひ読んでみてください。続いて、今週17日(金)には、「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」の発表が待っています。こちらには私たち秋草の司書2人も投票に参加しています。自分たちが選んだ本は受賞作に選ばれるのか!?発表を楽しみにしています。

贈る言葉に代えて

3年生のみなさんの登校日も残り数回となりました。今頃は高校生活を振り返り、たくさんの思い出と共に学校での時間を大切に過ごしていることでしょうか。これから広い世界で様々な経験を重ねていくみなさん。悩み、迷い、不安になることもあるでしょう。その気持ちを支えてくれるのは人だけではありません。本という存在もまた、みなさんをそばで励ましてくれるはず。

159-ハ『自分をたいせつにする本』

服部 みれい || 著 筑摩書房

これまででもこれからも私たちは自分の心と体で人生を歩んでいきます。その大切な自分という存在ときちんと向き合い、大切にできていますか。無理してるかもと感じる時は少し立ち止まって、この本を開き、その日から始められる小さなことから自分を労わってみましょう。

—自分の中にあるものが、世界として映る—

913.6-ブ『両手にトカレフ』

プレイティ みかこ || 著 ポプラ社

14歳のミアが着る制服のスカートは短い。それは成長した体に合うサイズを買える環境にミアがいながら。日々を生き抜くことで精一杯のミアには何かを楽しむ余裕さえなかったが、1冊の本、1人の同級生との出会いをきっかけにミアの世界が少しずつ変わっていく。

—私は私だ。私の価値を決めるのは私—

915.6-ク『語学の天才まで一億光年』

高野 秀行 || 著 偕成社

辺境地帯へ冒険するという目的のため、必要となる言語を学んできた著者高野さん。これはその冒険記であり、様々な言語をどう習得したかの記録です。どちらの視点で読んでもおもしろく、冒険を通して言語を学ぶ楽しさが伝わってきます。学ばっていいなと思える1冊。

—トラブルは人を強くする。語学も鍛えてくれる—

チョコレートを楽しむ

588-カ『チョコレートの手引』

蕪木 祐介 || 著 雷鳥社

みなさんはチョコレートが発酵食品だと知っていましたか。チョコレートのおいしさはよく知っていてもカカオの実がどんな工程を経て、チョコレートになるのかは知らない部分が多いのでは?まだ知らぬチョコレートの奥深い世界を覗き、新たな発見を楽しんでみませんか。

913.6-オ『銃とチョコレート』

乙一 || 著 講談社

リンツ、ロイズ、ゴディバ、ブラウニー、この物語の人物にはチョコレートにまつわる名がついています。怪盗ゴディバと探偵ロイズの勝負が注目を浴びる中、少年リンツが見つけた謎の地図にはゴディバが犯行時に残すのと同じマークがあった。ここからリンツの危険な冒険が始まる!



新着コーナーの気になる本

913.6-テ『川のほとりに立つ者は』

寺地 はるな || 著 双葉社

2023年本屋大賞ノミネート作。喧嘩わかれになったままの恋人が意識不明の重体と知らされた原田清瀬。彼の身に何が起きたのか。彼が隠していた事とは。それぞれの事情を抱えながら生きる人たちが傷つけ、傷つきながら、お互いの本心に触れ、自分の世界を変えていく。

914.6-ヅ『おつかれ、今日の私。』

ジェーン・スー || 著 マガジンハウス

何もかももうまうまいかない日もあるし、頑張りすぎて動けなくなるくらい疲れてしまう日もある。不満や不安を一人で抱え込んでしまっている人の気持ちに寄り添いながら、心がやわらぐ言葉をかけてくれる1冊です。読んでいる内に肩の力が抜けてくるのを感じてください。

司書の今月はこの本読みました

先日偶然見かけたテレビ番組で、私も好きな絵本が紹介されていました。ちょっと悲しい気持ちになるのですが、読めば心が慰められ、周囲の人を大切にしたい日々を生きようと思える本です。スーザン・バーレイ さく・え『わすれられないおくりもの』(E-ハ 評論社)まわりのだれからもしたわわっていたアナグマとの別れ、残された友は悲しみの後にアナグマが残してくれたもののゆたかさに気付きます。卒業はアナグマの別れとは違いますが、それでも別れです。皆さんはどんなおくりものを心に受け取り、そして残すのでしょうか。あと数日、大切に【鈴木】